

30P1-am008

インドネシア産およびタヒチ産ヤスデゴケ、インドネシア産フタバネゴケおよびケゼニゴケ由来の生物活性成分の探索

○八木 康行¹, 伊藤 卓也¹, Ismiarni KOMALA¹, 長島 史裕¹, 浅川 義範¹ (¹徳島文理大薬)

【目的】我々はこれまで種々の苔類および薬用植物からビスビベンジル化合物 marchantin 類やテルペノイド化合物など生物活性を有する多種多様な二次代謝産物を見出してきた。苔類からの新規生物活性化合物探索の一環として、インドネシア産およびタヒチ産ヤスデゴケ、インドネシア産フタバネゴケおよびケゼニゴケの生物活性成分の探索研究を行ったので報告する。

【方法・結果】上記コケを粉碎後、エーテルおよびメタノールで抽出した。HL-60細胞および KB 細胞に対する細胞毒性試験の結果を指標に、得られた粗抽出物を各種クロマトグラフィにより分画・精製を行った。その結果、インドネシア産ヤスデゴケから芳香族化合物 1-4 を、タヒチ産ヤスデゴケからセスキテルペノイド 5 および 6 を得た。単離した化合物は、2D-NMR や GC-MS などの各種スペクトルデータの詳細な解析により、これらの化学構造を決定した。また、単離した化合物についてこれら細胞に対する細胞毒性を詳細に検討したところ、化合物 1-5 に細胞毒性が認められた。

